

作:増山大祐

小委員会の風景



九月の事業実施に向けて！



第十回全体会議

蒲郡若者会議

政策・事業内容
徐々に固まる

十月に向けた
事業準備・政策検討

九月二十六日に十二回目の全体会議がZoomにて開催された。十月二四日の福寿稲荷こりやく市で行う事業に向けて若者議員は試行錯誤を続けている。

今回の全体会議は前半ではZoomの機能を活用し、各委員会をシャッフルしてそれぞれの委員会の政策内容についての話し合いが行われた。各委員会の若者議員が他の委員会の発表を聞くことで、自分の委員会と比較して「この点が足りないんじゃないか」とか

「その工夫面白い」といった新たな発見を得ていた。若者議員だけではなく市役所の職員や協力者の方々の意見交換も行い、自分の委員会へと持ち帰り後半の政策再検討への参考にしていたようだ。

後半の部では、政策再検討に加え、十月に行う事業に向けたスケジュール調整が行われた。次回の全体会議が事業実施となる。それまでの一カ月の間で政策に紐着いた事業を綿密に構築していただきたいものだ。この福寿稲荷こりやく市の事業は蒲郡若者議会が市民の皆様へお披露目となる初舞台と言っても過言ではない。運営側は中止となった場合も含め、あらゆる場合を想定した実施方法や、新

型コロナウイルス感染症対策についても検討している。

誰かのために動いている若者議会は蒲郡市に新しい風を巻き起こすことができるのか。半年前と比べると明らかにまちへの意識が変化している若者議員。政策内容も固まりつつある。市役所関係者をはじめとする協力者の方々が見守る中、「若者ならではの若者にしかできない」政策は夢を膨らませる意見ばかりである。

毎回お楽しみみのアイスブレイク。今回は皆の知っている人物がインターネットで検索した履歴を言い、その履歴を検索した人物を推理するゲーム。ヒントとして出題者から検索履歴ワードを発表され、チャット機能を使って回答する非対面ならではのゲーム。難易度も高かった。優勝は大差をつけた地域委員会が勝ち取った。

アイスブレイク
「クイズ検索履歴！」

次回の事業実施に向けて委員会各自で小委員会を開催するなど事業準備を行う。緊急事態も十月から解除される。若者議員と運営委員会が団結してオンライン会議はもちろん、実際に対面で今から活発な議論をすることで、創り上げた蒲郡若者議会事業に臨む。



蒲若春秋

緊急事態宣言の発令で再びオンラインでの開催となってしまった第十二回全体会議だが、若者議員同士の仲も深まり、お互いの強みを活かした議論が展開された。新型コロナウイルス感染症の影響で対面開催が難しい中、オンラインを活用した交流方法を学ぶことは、若者議員だけでなく、運営側や協力者の方々も様々な場面でこの経験が活きてくると感じている。蒲郡は新型コロナウイルス感染者数が先月に比べ減ってきてはいるが、油断ができない状況が続いている。運営(蒲郡青年会議所)は若者議会に関わる全ての方の安全を第一に考え、事業を開催するにあたり、あらゆる場面を想定している。今後も新型コロナウイルス感染症対策により一層力を入れてリスク管理をしていく所存である。

十月二十四日に開催される若者議会事業では、五つの委員会がそれぞれ「繋ぐ事業」を最大限に発揮できるように期待したい。

